



慈林小だより



令和7年度 3月号 令和8年2月27日(金)

「成長」

校長 石原 昌治

熱戦に沸いたミラノ・コルティナ冬季五輪が幕を下ろしました。日本は、冬季五輪最多となる計24個のメダルを獲得し、前回北京五輪の記録を、さらに塗り替えました。どうしても結果だけをクローズアップしてしまっていますが、当然、ここまでの道のりは、出場者全員平らなものではなかったはずですが、今大会で一躍有名となった「りくりゅうペア」を見守り続けてきた、元フィギュアスケーターの高橋成美さんが「諦めない強い気持ちは、階段になって頂上まで連れて行ってくれるんです。」という名言を残しました。たとえ結果に繋がらなくても、希望を持って一步一步階段を上り続けることが、人間をどこまでも「成長」させる秘訣であることを、改めて教えられた素晴らしい大会だったと思います。

さて、「成長」といえば、じりん子たちが大きな「成長」を遂げたイベントがあります。それは、1月末から2月にかけて実施された慈林小シャトルラン大会です。5月の新体カテストでは、県平均を超えた項目(学年別男女別)が12項目中5項目でしたが、今回の大会結果をみると、なんと12項目中10項目と驚異的な「成長」を遂げたのです。たった半年で、全校児童の持久力を大きく伸ばした要因を2つ挙げたいと思います。1つ目は、学校だより2月号でも少し触れましたが、周りからの大きな声援があったことです。「がんばれ」という、保護者・友達・教職員からの温かい声かけが、大きな力となりました。2つ目は、一人ひとりが大会に向かって真剣に取り組んでいたということです。大会当日までの練習期間において、友達と競う児童がいる一方で、全員が自分のペースに合った目標を立て、過去の自分と勝負しようとする姿がありました。これまで持久走に対して苦手意識を抱いていた児童が、自分のペースで走ることができるシャトルランに積極的に参加しようとする光景は、少しでも「成長」したいと願う人間の原点を見ているようで、本当に輝いていました。

もう一つ、子どもたちの「成長」を実感することができた学校行事がありました。2月25日(水)に行われた「6年生を送る会」です。全員合唱「See You」の明るい歌声から始まり、今までお世話になった6年生に、1年生から5年生まで、工夫を凝らした発表で感謝の気持ちを伝えることができました。どの学年の出し物も息がぴったりで、この一年間の大きな「成長」を感じずにはいられませんでした。最後に、6年生も素晴らしい合唱と合奏を披露してくれました。これまでは、送る側として階段を一步一步上ってきた6年生にとって、今まで上ってきた階段を一度振り返ってみる良い機会となったのではないのでしょうか。送る側も送られる側も、自分の「成長」には、周りの大きな支えがあったことに気が付くことができた素敵な時間でした。

子どもたちの健全な「成長」には、周りの支えが欠かせません。保護者・地域の皆様におかれましては、この一年間、子どもたちに寄り添い、よさを見つけ、励まし、精一杯支えてくださいましたこと、厚く御礼申し上げます。今年度も、気が付けば残りあとひと月となりました。子どもたち一人ひとりが、1年間を振り返り、次の課題や目標を見つける大切な期間となります。学校・家庭・地域がワンチームとなり、子どもたちのより良い「成長」を支えていけるよう、今後も引き続きご支援くださいますようお願いいたします。